

令和4年度 第2回鈴鹿市立加佐登小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和4年6月21日(火) 9:30~10:45

2 場 所 加佐登小学校 少人数教室

3 授業参観 9:35~10:05

4 あいさつ

(委員長より)本日は仕事の都合上参加者が少ないが、積極的に意見をお願いしたい。
(学校長より)本日は、授業参観をしてもらい児童の様子を見ていただく。10月の学校運営委員会でも授業参観を予定している。教育委員会の杉谷さんにアドバイザーとして参加していただくが、今年度後半は加藤さんに来ていただく予定である。

5 協議内容

(1) 授業参観後の意見交流について

- しばらく授業参観ができなかったが、こうして学校運営委員にみて頂くことは、年度末に学校関係者評価をしてもらう上でも大切である。数年前、落ち着いて授業が受けられない状態があったので、ずいぶん落ち着いたと委員のみなさんも思われるだろう。当時はどうして落ち着かなかったのか、今、話をしておくといよい。
- 5年「みんなが過ごしやすいまちづくり」の授業の子どもたちの意見を、まちづくり協議会に取り入れてみたいと思った。子どもたち自身が思い描く加佐登の未来図を知りたい。また、3年「人権ポスター」では、みんなが同じように色を塗っていたが、先生がすばらしく、同じ肌色でも違いが出るよう指導していた。
- トイレのスリッパがきちんと並んでいたし、掃除も行き届いている。
- 全体の雰囲気を見て、立ち歩いている子もいないし、かなり落ち着いている印象を受けた。
- 複数の教員が配置されている授業もあり、目が行き届いている。
- 掃除道具の中も見したが、ほとんど整頓されていた。男子トイレのスリッパが少し乱れていたが、こうした細かいところを大切にしていけるとよい。
- 参観ができるのは貴重な体験。授業では子どもたちがパソコンを当たり前のように活用していて衝撃を受けた。
- 先生と子どもとの関係が良好で、友好的な関係が伝わってきた。どのクラスも子どもの発言をまず聞くというスタンスから、意見を引き出しておりよい雰囲気だと思った。
- 先生の服装がラフだと感じたが、子どもたちと休み時間に遊ぶためだと思った。
- プロジェクター、カメラ、エアコン、扇風機など設備が充実していて安心である。一方でプロジェクターや照明などつけっぱなしの教室があった。環境につながるということ意識が必要。名札のSDGsのマークに気が付いた児童もいたので学んでいるのだと思った。学習したことと実生活を結びつけることが大切である。

○学年が上がるにつれて、授業態度や内容もよくなっている。高学年の態度がよくてよかった。2年生でパソコンが分からない子に先生がついていたり、分かる子は自分で進めていたりする姿があった。

○環境も整っておりよい。2階のスリッパはよくなかったが、高学年はそろっていた。

○白鳥中の修学旅行では、5分前行動ができたと聞いた。うれしい姿である。

○日本語指導を受けている児童は、クラスから離れてずっとそこにいるのか。なじんでいるか心配だったが、笑って授業を受けていて安心した。

→普段はみんなと過ごし、週3～6時間の日本語の指導を受けている。

(2) 学校関係者評価について

学校長より説明

○過重労働平均月30時間以下を目標とするのは、一般的にみて多いのではないか。

→学校は現状として、30時間以下を目標とするのが妥当な状況である。3、4月は忙しく8月は比較的少ないなど時期によって過重労働の時間が変わる。

6 教育支援課 杉谷 コミュニティ・スクール推進コーディネーターより

- 参観ができてよかった。学校運営協議会は学校職員だけでは気づかないことを教えてもらえる貴重な場である。
- 委員長の「まちづくりへの子どもの意見を聞きたい」という意見については、市内の中学校で「将来の町について」のテーマで生徒会と学校運営協議会で話しているところもある。先週のコーディネーター研修会の講師の高木先生のお話に、「子どもはお客ではない。スタッフである」という言葉があった。まちづくりについて共に話し合うのもいいことである。